JAだよりおおがた
Ogata
1
JANUARY
2020 No.558

新春特集

女性部・青年部・フレッシュミズ「新年に思うこと」04

今月の表紙 「白雁（ハクガン）来村」

12月８日、日本野鳥の会秋田県支部主催「八郎潟干拓地冬鳥観察会」の後をついて、大潟村の百町歩農場付近で撮影しました。これほど大量の白雁を見たのは初めてです。

野鳥の会では、「幼鳥がものすごく増えている。村の環境が良く、エサが豊富なおかげだと思う」と話していました。

撮影／大潟村写真クラブ　櫻庭　秀雄 さん

今月号の主な内容

02　年頭にあたって（組合長あいさつ）
06　コメ記者熊野のコラム
07　営農だより（水稲の生育状況と作柄を振り返る）
12　あぐりプラザ情報・家族の健康
13　女性部活動だより
14　フォトニュース
15　フレミズだより・青年部活動報告と予定・職員人事・臨時職員紹介
16　初めてのお誕生日・フォトニュース

みんなのよい食プロジェクト
JAグループ秋田キャッチフレーズ
いいねをいっぱい届けたい
JA大潟村

年頭にあたって 2020

代表理事組合長　小　林　　肇

組合員の皆様とご家族、地域住民の皆様に、謹んで新年のおよろこびを申し上げます。また、日頃よりＪＡ事業につきましてご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

❖一年を振り返る

昨年は、雪解けも早く春先から天候に恵まれ稲作作業にとっては順調な年となりました。県内では、水不足により稲の作付けを断念せざるを得ない圃場が出る状況になりました。大潟村は、水不足を心配しなくても良い特別な環境にあるのだと痛感させられました。７月、８月は30度を超える猛暑もあり、高温障害が出るなど登熟に影響が出るような年となりました。

今年も全国的に自然災害が発生し、台風15号、19号、21号と立て続けに関東太平洋側を直撃し、大きな爪痕を残しました。広範囲の災害だったため、生活インフラの復旧に時間がかかったのは、大きな教訓になりました。農作物や建物にも甚大な被害が発生し、３，０００億円を超える大きな被害となりました。一昨年は、大潟村も台風被害に見舞われ、自然災害が大規模化しており、建物更生共済や収入保険の検討も重要になってきています。

そのような気象条件の中、秋田県の作況指数はやや良の「１０４」となり、大潟村では「１００」の平年並みとなりました。一昨年の作況が「89」の著しい不良の作でしたが、不作を取り戻すには至りませんでした。

全国的には「99」の平年並みとなりました。北海道、東北がやや良と「１００」を超え関東、中国、四国、九州が軒並みやや不良となった事により、大幅な需給緩和とはなりませんでした。仮に作況指数「１００」となった場合は、適正生産量をかなり上回る可能性があったため、今後とも事前契約や複数年契約など安定的な契約を定着させる必要性があると思われます。さらに、今年から始まった収入保険も見直され、掛け金の安いタイプも創設されたので検討の余地はあると思われます。

❖米以外の状況

大豆につきましては栽培期間を通して好天が続いたため、小粒傾向ではありましたが着莢数が多く、高い収量となりました。

小麦につきましては、登熟期にあたる５月に降雨がなく、収量や品質への影響が懸念されましたが収量は過去最高となり、ラーメンやパンの原料としても高い品質となりました。

かぼちゃにつきましては、好天に恵まれ生育は順調に推移し、また全国的にも豊作の年でありました。出荷時期に関しては関東圏の低温による後退と北海道の前進で、販売については非常に厳しい年になることが予想されましたが、販売先の評価もいただいており、計画的に出荷、販売することができました。

❖全県１ＪＡ構想について

平成30年11月に行われた第30回秋田県ＪＡ大会において、秋田県１ＪＡをめざした構想が提示され、令和３年度末までに合併に向けた組織決定を各ＪＡで行い、早ければ令和６年度から１ＪＡとして運営開始を検討しています。今現在は、全県統一したシステムや規程、固定資産評価などの精査を行っており、課題の洗い出しの段階となっています。３月開催予定の座談会では、１ＪＡの全容や出された課題の状況を説明する

予定となっていますので、たくさんのご意見を伺いたいと思います。

なぜ今全県1ＪＡ構想の話題が出てきたのかといいますと、全国的な少子高齢化の中で、組合員の脱退等による出資金の減少、低金利時代による信用事業利益の悪化、さらなる農協改革の実行による収益性悪化など、避けられない多くの課題を抱えているためです。

ＪＡ大潟村は、基盤整備が整い後継者もしっかりと確保できている稲作専業農家群のＪＡです。しかし、ＪＡ大潟村独自の金融システムである総合口座の運営や、全県ＪＡが加入している経済システムに加入していない事など、全県1ＪＡに加入するには大きなハードルがある事も事実です。さらに、あぐりプラザの運営赤字など地域インフラを支えている事業もあり、合併して解決できるものでもありません。合併するためにどのような改革が必要なのか、しっかりと示しながら、今後の大潟村農業を考える期間にしていきたいと思います。自分たちのＪＡとして、地域のインフラ機能として、どう運営していくべきか一緒に考えていきましょう。

❖タマネギ事業

大潟村における高収益作物の実証という事でタマネギ事業を開始しました。産地パワーアップ事業を利用したタマネギ乾燥調整貯蔵施設が昨年2月に完成し、約60haで作付けされたタマネギ1，２００ﾄﾝが収穫され乾燥作業が行われました。しかしながら、腐敗等により多くのタマネギが出荷できず廃棄となってしまいました。その要因を究明するべく、乾燥施設の運用、気象、栽培上の内容等について第三者機関に調査を依頼しております。長い期間をかけて栽培されたタマネギが腐った責任を痛感し、同じ失敗を繰り返さないように万全の対策をとってまいります。また、被害を受けられた栽培農家に対する対応をしっかりとしてまいります。

大潟村のヘドロ土壌で、タマネギをはじめとする野菜生産には、土作りが重要である事がよくわかった年でもありました。水田のように水が入っているときと、乾いているときの肥料の吸収率に違いがあり、ヘドロ土壌では急激な乾燥により硫化水素が発生し土壌が酸性化してしまいます。それを抑えるために石灰分が必要不可欠であり、暗渠による排水対策とともに重要な対策となります。さらに、タマネギをはじめとする野菜は水稲より多くリン酸成分を必要としますが、リン酸成分が鉄などと結合し作物が吸収できない状況となるなど、水田とは違った対策が必要になってきます。こういった課題を一つ一つ解決し、タマネギの産地化に向けて努力してまいります。

❖ＪＡ大潟村創立50周年

今年、ＪＡ大潟村は創立50周年を迎えます。創立以来、一度も合併を経験しておりませんが、組合員の積極的な利用により、足腰の強い経営基盤を作り上げ存続してきました。創設した当初の入植者組合員から後継者世代と経営は変わりましたが、当ＪＡは、大潟村農業の重要な役割を果たしてきたと思います。50周年の大きな節目を迎え、記念行事を開催する事としています。合併議論の最中ですが、今後のＪＡ大潟村の姿をどのように描くのか、組合員とじっくり話し合い将来を見据えた議論をしていきたいと考えています。今後とも、ＪＡ事業に積極的に関与し発言していただきたいと願っております。

謹んで新年のお慶びを申し上げます

代表理事組合長　小林　肇
専務理事　桑原秀夫
常務理事（学識経験役員）　高橋勇輝
理事　深井源八郎
理事　谷口良一
理事　中島達也
理事　橋本考由
理事　佐野　潤
代表監事　松井　仁
監事　吉原　忍
常勤監事（員外監事）　渡部　誠

外職員一同

新春特集

「新年に思うこと」

ＪＡと深いつながりを持つ女性部長・青年部長・フレッシュミズ執行部代表より、昨年の反省や今年の展望など「新年に思うこと」を、それぞれ語っていただきました。

女性部

楽しくなきゃ女性部じゃない

部長
栢森　慶子さん

新年あけましておめでとうございます。日頃より女性部の活動にご理解、ご支援いただき心より感謝申し上げます。

「楽しくなきゃ女性部じゃない」。この思いで活動を進めており、部員が誰でもやりたいことを立ち上げることができる「活動グループ」では、５つが誕生しております。

令和元年度は新たにせっけん作りグループができました。廃油せっけんから化粧せっけん、食べたくなるようなスイーツ石鹸など、身体に優しく、楽しい手作り体験ができました。

青年部

令和にむけて

部長
相馬　時博さん

新年あけましておめでとうございます。日頃より青年部の活動にご理解、ご協力を賜り心より感謝申し上げます。

昨年は令和元年度ということで、私も含め部員一同新たな気持ちで農業の実践と青年部活動に取り組んだ年となりました。

特に４年目となる畑作活動においては、収量の向上もさることながら日に日に技術の向上も顕著であったと思います。まさしく、「男子、三日会わざれば刮目（かつもく）して見よ」（※努力をして

フレッシュミズ

昨年を振り返って

執行部
川﨑あかねさん

新年あけましておめでとうございます。日頃よりフレッシュミズの活動にご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

今年度は執行部と企画部を統一して、役員６人体制での活動となっております。不安はありましたが、役員をはじめとするフレッシュミズの仲間、そしてＪＡや女性部の皆様の協力のもと運営することができました。

部員同士の交流を深めるため、また部員以外の方にもフレミズを知ってもらうため、集まり

盆踊り活動グループは、仮装「令和のおしんまつり」で1位となったことで楽しさも倍増しました。野菜栽培や、小学生のための豆腐作りサポート隊などの活動グループも楽しく活動しております。

女性部の活動は年間を通してありますが、特に冬の農閑期に集中しております。ＪＡの高齢者福祉対策「ＪＡ健康寿命１００歳プロジェクト活動」の推進の一環として、専門部会ゆずり葉は「地域の茶の間」を年数回開催し、加工部は伝統食である委託味噌加工で活躍しております。また、エコレク部は不用衣類の回収でごみの減量に一役買っています。いずれも地域になくてはならない活動となっております。

さて、今年度の軽スポーツ大会では、パラリンピックの競技種目でもある「ボッチャ」を行い、大いに盛り上がりました。他にも、健康講座、リフレッシュ体操、料理教室など、楽しく学べる企画を考えております。

ＪＡを取り巻く環境の変化にも情報を共有し、社会にもしっかりと目を向けていけるよう、一人一人が考えていかなければなりません。ＪＡ役職員との懇談会には多くの部員に参加していただきたいと思っております。

「女性部は楽しいな」と思っていただけるよう、執行部、役員一同楽しく頑張ってまいります。女性部未入会の方、入会をお待ちしております。

本年も変わらぬご支援、ご協力をお願い申し上げます。

いる者は三日もすれば大きく成長しているので、次に会うときには注意して見なければいけないという意味）という慣用句のとおりといっても過言ではないでしょう。

また、学習活動においても格納庫観察や、トラクター修理施設見学と、精力的に活動を行い、見聞を広めることができました。

さて、新たな令和時代が幕を明け青年部員として求められること、やらなければならないことはたくさんございますが、個人的な意見としましては、「もう一度見直す、もう一度考え直す」ということをテーマに挙げて、営農と青年部活動に取り組んでいただければ幸いと思っております。私自身も「知っていたつもりが、半分も知らなかった」ことや、「そこまで知っているならなぜそうしなかったのか」ということが多々あり、日々勉強、日々精進を痛感しております。

私を含め若い営農者はとかく年長者の意見を受け流し気味で、時には対立、反抗といった場面もございますが、それでも皆様のご指導、ご鞭撻が必要と思っておりますのでどうかよろしくお願い申し上げます。

これからもＪＡ大潟村青年部は、ＪＡ事業に貢献するだけではなく、地域社会への貢献や活性化の助力ができるように邁進してまいりますので、今後とも皆様のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

やすい夜に「夜のお茶会」と称して交流会を行いました。移動研修では、千秋公園にある文化産業施設「松下」で、あきた舞妓を見学しました。ひだまり苑のボランティアでは、昨年に引き続き洗濯物たたみをしました。

他の団体と協力した行事として、ＪＡ座談会ではＪＡと意見交換し、保健センターの教養講座では防災について学び、空き缶で米を炊く実践を行いました。軽スポーツ大会では、女性部と合同でボッチャというスポーツを体験しました。料理講習会では、公民館主催でみそ玉を作りました。

主な行事の一部をここに挙げましたが、これらを含め全ては個人の力だけで成せるものではなく、多くの方々の協力で楽しく完遂することができました。改めて感謝申し上げます。

昨年は元号が変わって最初の年でした。役員の数が減り、部員の数が減る中、いかに部を盛り上げより良いものにしていくか頭を悩ませた一年でもありましたが、皆と協力し、お手伝いさせていただく中で、地域の一員としての一体感を強く感じることができたと思います。

今年も楽しんで活動する中で、地域に貢献できるよう、一層努力していきたいと思います。

本年も変わらぬご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

コメ記者 熊野のコラム

※このコーナーは隔月で掲載致します。

第７回 「いまどうなっているの？お米の状況⑦」
新年のコメ業界の展望　脱コシヒカリと穀粒判別器によるコメの検査

熊野（くまの）　孝文（たかふみ）　1954年鹿児島県生まれ。米穀新聞社記者、30年以上にわたりコメの流通現場を中心に取材。

令和２年はどんな年になるのでしょう？

生産者の皆さんはすでに種子の手当てや営農計画に思いを巡らしていると思います。著者よりもよほどしっかりした見通しを持たれているはずですので新年の展望について記すのは少々キーボードが重く感じるのですが、そんな見方もあるのかと言う程度で流し読みしていただければ幸いです。

まず、すでに旧年中に決まっていることがあります。それは１月21日に実施される令和２年産政府備蓄米買入入札です。買入数量は20万7000㌧（従来分20万㌧プラスＴＰＰ豪州枠7000㌧）で元年産と変わりませんが、新しく加わったことがあります。

１、穀粒判別器を活用した米穀を買入対象に追加。
２、入札書の提出方法を持参または郵送に加えて電子入札を追加。

の２点です。電子入札は事務システムの合理化策の一環として全省庁で行われているので、これは良いとして、最大の焦点は穀粒判別器を活用した米穀を買い入れ対象に加えたことです。買入数量はわずか500㌧で全体から見れば微々たる数量ですが、このことがコメの流通に大きな変革をもたらすと見ています。

穀粒判別器で測定した玄米のうち一定品位のものを買い入れるとしており、この項を記している段階では一定品位（死米、着色粒等の混入割合）の基準値は示されていませんが、入札告示と一緒に公表されることになっています。なぜ、穀粒判別器の画像測定がコメの流通に大きな変革をもたらすかと言いますと、これまでコメの検査は人間の目視が大原則で目視によって等級の格付けがなされていました。それが試験的とはいえ政府備蓄米買入入札で穀粒判別器の画像データでの数値で買入されることになり、農産物検査法が改定されたのですから大きな出来事です。おそらく農水省はナラシ対策の価格補填も検査米に限っていた点を改定し、穀粒判別器で検査したものも認めることにすると思います。さらには量販店等で販売されている精米も検査したものを銘柄品種の担保にしていますが、いずれはこれも改正され穀粒判別器で検査したものは生産者の自己申告した品種が担保されることになると思います。そうなればこれまで検査米の取引は、あくまでも検査官が目視で検査して等級印を押したものを売り買いしていましたが、穀粒判別器で検査したものも銘柄が謳えるとなると、画像データによる取引も出来るようになります。画像データは被害粒等の混入割合だけではなく、瞬時に一粒一粒のコメの面積も測定、粒度分布がグラフとして出てきますので、わかりやすく言うと人間の指紋と同じで、このデータを保存することによってこれ以上確実なトレサビリティーはないというシステムも構築出来ます。

穀粒判別器の機能に着目し、これを活用して実際の取引に活かそうとしている組織もあります。原料米搗精業者で組織される全国米穀工業協同組合の事務局は、２年前からケット科学研究所の穀粒判別器を導入して取引会が開催されるたびに特定米穀を画像解析してデータ取りを行い、実際の取引された特定米穀の品位と価格の関係を蓄積しています。おそらく今年中にホームページにそうした画像データをアップして、取引会場に来られなかった会員社にも情報提供することになると思います。

大きな変化として取り上げなくてはいけないのが「コメの契約栽培の拡大」です。農水省が事前契約を推奨していることもあって大手卸を中心に業務用米の需要を販売先にした特定銘柄の契約栽培が２年産から拡大します。大手卸の中には農研機構が育種した12品種もの許諾を得て、ＪＡや生産者に働きかけて扱い数量を倍増しようと計画しているところもあります。倍増計画はこの卸だけでなく他の大手卸も計画しています。これらの倍増計画のポイントは２つあります。一つは多収米の生産で、農研機構が育種した品種の中にはコシヒカリ並みの食味を有し、かつ収量が15％も多いという品種もあります。この品種を育種した研究者は「脱コシヒカリ」を唱えています。これまで日本のコメ作りは“コシヒカリ”を頂点とした栽培体系になっており、タンパク値を上げないことによる良食味米作りが基本になっています。タンパク値を上げないコメ作りは窒素肥料を抑えることが栽培の基本ですが、これだと収量を犠牲にしなければなりません。さらに高温障害による乳白米の発生というリスクを背負うことになります。元年産新潟コシヒカリの１等比率が極端に下がったのもこうしたコメ作りが影響しています。育種者は収量を得るためにはコシヒカリ栽培の常識を否定しなければならないとまで言っており、その上で現在の等級検査まで言及しています。

穀粒判別器による画像検査と良食味多収米生産拡大はリンクしていると捉えることも出来ます。脱コシヒカリと検査制度の改革は日本のコメ作りを大きく変えるきっかけになると思います。

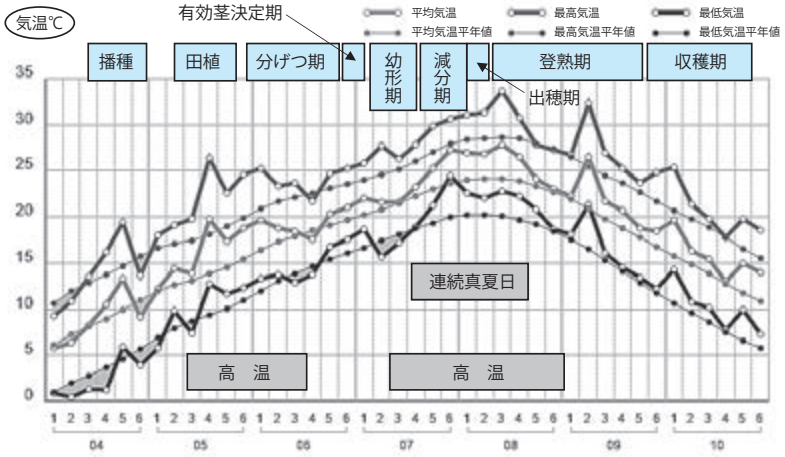
〈つづく〉

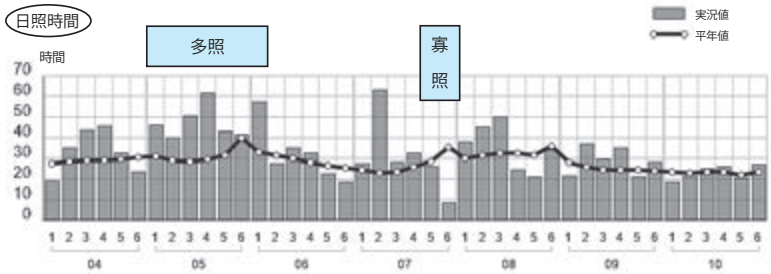
営農だより

～令和元年度　水稲の生育状況と作柄を振り返る～

令和元年大潟村産米は、全体の平均単収625kg、作況指数は100の「平年並み」となりました。
生育状況と作柄について、気象経過や坪刈などのデータをもとにまとめましたので、来年度の参考にしてください。
参考資料《登熟期における高温障害の発生要因と対策について》もご覧下さい。

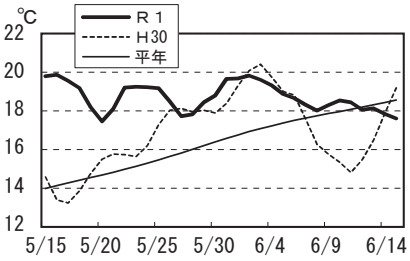
1　気象経過【秋田県農業気象システムデータ】





2　生育概況（あきたこまち）

図-1　田植えから５日間の移動平均気温



（1）育苗期

本年は４月15日頃より播種作業が始まり、４月中旬の気温が高めだったため、出芽については概ね良好であったものの、一部で苗焼けによるバラつきが見られた。また、高温日が続いたことで出芽以降の生育が２～３日程度早まり、ハウス内の換気や灌水等の管理に苦慮する方が多く見受けられた。４月下旬から一時低温となったものの、その後の気温が平年を上回ったため、生育が早まり田植え時の葉齢が4.0葉を超えた苗も多かった。

（2）田植え～生育初期

５月15日前後から田植えが始まり、期間中の気温が平年を大幅に上回った（図－１）ため、活着は良好であったが、５月20日～21日にかけての強風により、一部の圃場で代枯れが見られた。また、すでに表層剥離も発生していたため、圃場の風下に表層剥離が集積し、苗立ちの遅れや補植を必要とした圃場も目立った。

令和元年度 水稲の生育状況と作柄を振り返る

田植え前から好天日が続き、初期生育は良好で1回目（6月7日）の生育調査では、「あきたこまち」の草丈が平年比99％、茎数は㎡当りの栽植密度が平年より1株少なかったことで、同比92％であったが、他品種の多くは茎数が平年比を上回っていた。また、5月15日頃に移植した圃場では株当り茎数が7本～10本に増加している圃場が多く、3号分げつの発生が顕著に確認された。

（3）分げつ期

6月中旬に気温が低下し、2回目の調査（6月18日）では草丈が28・4㎝（平年比91％）、茎数204本／㎡（同87％）、葉数7.0葉（同-0.7葉）、葉色値39・7（同97％）と全体の生育は一時停滞傾向にあった。3回目の調査（6月28日）では平均的な生育は「2～3日の遅れ」「草丈やや短め」であったが、田植え日の早晩で生育に圃場間差（葉齢で7.6葉～9.6葉）が見られた。また、田植え日が遅い圃場においても下位分げつが早めに発生しており、有効茎決定期（9葉期）には十分な茎数確保が見込まれた。

下位分げつの発生が促された要因のひとつとして、春先からの高温・多照により圃場の乾燥が進み、乾土効果による地力窒素が早く発現していたことが考えられる。また、7月の上旬も気温が高めに推移し、本来最高分げつ期に当たる4回目の調査（7月8日）以降も分げつが増えているが、これについては地力窒素の溶出期間が長かったためと考えられる。4回目の調査で草丈54・6㎝（平年比100％）、茎数435本／㎡（同93％）、葉数10・0葉（同-0.4葉）、葉色値45・3（同103％）と葉色値がやや高く、短めであった草丈も平年並みとなっているが、上位葉（9葉と10葉）の葉身が急激に伸長したことが要因であった。特に10葉の葉身が50㎝（村内のあきたこまちは例年45㎝程度）を超える圃場が目立ち、生育旺盛な状態にあったため、中干しに入っていない圃場には早急な中干しを呼びかけた。

（4）幼穂形成期～出穂期

幼穂長から推測した本年の「あきたこまち」の幼穂形成期は平年並みの7月15日頃であった。幼穂形成期に当たる5回目の調査（7月17日）では草丈64・5㎝（平年比96％）、茎数459本／㎡（同106％）、葉数10・9葉（同-0.2葉）、葉色値42・1（同101％）と「茎数多め」の状態で、葉色値も高めであったことから、伸長中の第4節間やこの後伸長期に入る第3節間の徒長が心配された。このため、倒伏が懸念される品種では追肥の判断を慎重に行う必要があった。6回目の調査（7月29日）では草丈81・3㎝（平年比104％）、茎数442本／㎡（同106％）、葉数12・5葉（同-0.2葉）、葉色値40・8（同106％）と生育が平年を大きく上回り、倒伏の懸念が益々強まった。

7月下旬に一時寡照気味ではあったものの、幼穂形成期以降は気温が高めに推移し、7月25日以降は最高気温が30℃を超える真夏日が続き、「あきたこまち」の村内出穂期は平年より2日早い8月2日であった。また、本年は出穂時に減葉した茎が目立ったが、減葉の要因については、13葉が止葉となる品種の場合、9葉期～10葉期の高温や多照が関係しているとされており、今年の場合は6月中旬から6月下旬の高温が影響したのではと考えられる。

（5）登熟期

稲刈り前の成熟期調査で穂数が441本／㎡（平年比108％）、有効茎割合も94・8％（平年85・3％）と平年を大きく上回ったが、これについては7月下旬に一時寡照日が続いたものの、8月上旬～8月中旬の日照時間が平年を大きく上回り、気温も7月25日から8月19日にかけて最高気温が30℃を超える真夏日が連続したため、発生が遅い弱勢茎の生育が早まり有効茎になったものと思われる。穂数が多いことで、籾数も36・6千粒／㎡（平年比107％）と平年を大きく上回ったが、弱勢茎の籾数も多かったものと考えられる。また、分解調査結果から2次枝梗の籾数も平年を上回っており、弱勢茎籾と同様に登熟が後半となる弱勢籾の割合が高かったと予想される。

真夏日が連続した後、一時的な大雨や強風が8月下旬に繰り返され、9月に入り倒伏する圃場が散見されたが、要因としては幼穂形成期以降も葉色値が高かった影響で、どの品種においても第4節間と第3節間が平年より長い傾向が見られた。また、9月5日～9月10日にかけて30℃を超える真夏日が連続し、この頃より上位枝梗が急速に枯れ始めたが、おそらく下層の土壌も過乾燥状態となり、根域の退化もそれに伴い急激に進んだためと考えられる。

本年は全ての品種が高温時に出穂を迎えたが、登熟期前半の高温が影響し、白未熟粒やクサビ米等の被害粒の発生が目立った。

図-2　草丈・稈長（あきたこまち平均）

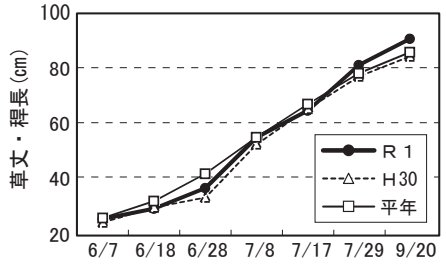


図-3　茎数・穂数（あきたこまち平均）

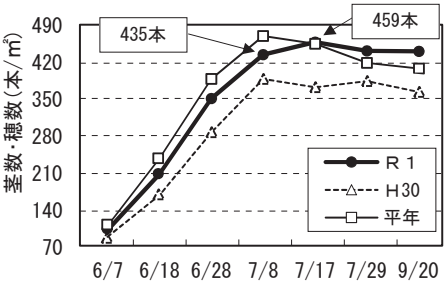


図-4　葉数（あきたこまち平均）

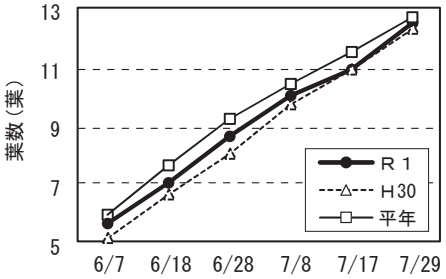
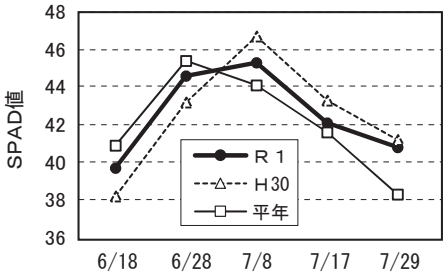


図-5　葉色値（あきたこまち平均）



令和元年度 水稲の生育状況と作柄を振り返る

3　病害虫発生状況

(1) い も ち 病	葉いもち病の発生は少なかったものの、出穂後も葉色が濃い圃場等では穂いもち病の発生が一部見られた。
(2) 稲こうじ病	幼穂形成期～出穂期に好天が続き、早生品種や晩生品種ともに発生は少なかった。
(3) 紋　枯　病	夏場の高温により、一部のもち品種圃場に発生が見られた。
(4) 斑点米カメムシ類	本年は「アカヒゲホソミドリカスミカメ」「アカスジカスミカメ」ともに発生量が２倍～４倍と多く、防除を実施しなかった圃場や防除の遅れた圃場では発生が目立った。

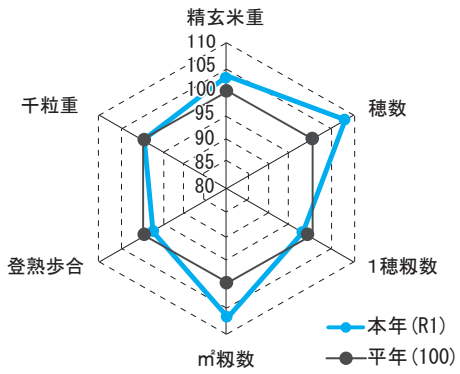
4　作柄状況（収量・品質）

表－１　定点調査区13地点の収量調査結果

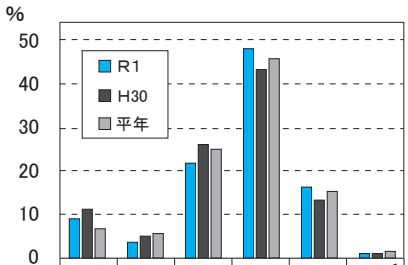
あきたこまち（生育調査13地点平均）	精玄米重（kg/10a）	穂数（本/㎡）	１穂籾数（粒/穂）	㎡籾数（千粒/㎡）	登熟歩合（%）	千粒重（g）
	595	441	83.1	36.6	86.7	21.4
平年比%（S58～H30）	103	108	99	107	97	100
前年比%	118	121	100	121	98	98

「あきたこまち」収量構成要素では穂数が４４１本／㎡（平年比１０８%）と多く、１穂籾数は平年比99%と平年並みであったため、㎡当籾数が約36・６千粒と平年（同比１０７%）を大きく上回った。籾数の増加と高温障害による影響で登熟歩合は86・７%（同比97%）と平年を下回ったが、千粒重（篩い目：1・85㎜）が21・４g（同比１００%）と平年並みとなったことで、定点調査区の坪刈収量は「あきたこまち」で５９５kg／10ａと平年を15kg／10ａ程度（平年比１０３%）上回った。収量構成要素の結果から、「登熟歩合が低かったものの、籾数が大きく上回ったこと」が収量増の要因であると考えられる。

R１年 収量構成要素（あきたこまち平均）



R１年　粒厚分布（あきたこまち）



	1.85＞	1.85	1.9	2.0	2.1	2.2≦
R1	9.0	3.6	21.8	48.2	16.3	1.0
H30	11.2	5.0	26.1	43.4	13.3	1.0
平年	6.7	5.6	25.0	45.9	15.3	1.5

5　大潟村予想収穫量（主要品種の作柄調査結果）

＜作況については、農林水産統計とは別に営農支援課で地区別・品種別に約60点を調査した結果＞

全体の平均単収は625kg、作況指数は100の「平年並み」となった。
［昨年は大潟村：561kg、作況指数89］

品種別では、あきたこまち：６０３kg
たつこもち　：６２６kg
きぬのはだ　：６８０kg

品質については、早生品種と晩生品種ともに白未熟粒、被害粒、着色粒等が目立ち、整粒割合は平年を下回った。

当ＪＡ検査実績での「あきたこまち」の等級比率は11月現在で、１等米比率が約94%となっている。

※平年単収は過去５年間の最高と最低を除く平均値　６２３kg

平成２６年	５８４ kg
平成２７年	６３８ kg
平成２８年	６５９ kg
平成２９年	６４７ kg
平成３０年	５６１ kg

―参考資料―　≪登熟期における高温障害の発生要因と対策について≫

本年は全国の稲作産地で「白未熟粒（シラタ）」の発生が多いと新聞等で報道されている。例年は西日本など夏場の気温が高い地域に目立つが、本年は北海道や青森県を除く北日本全域でも発生が報告されている。近年の温暖化による影響で東北地方においても、今後恒常的な発生が懸念されることから発生要因と対策について検討していく必要がある。

◎主な登熟期の高温障害の症状

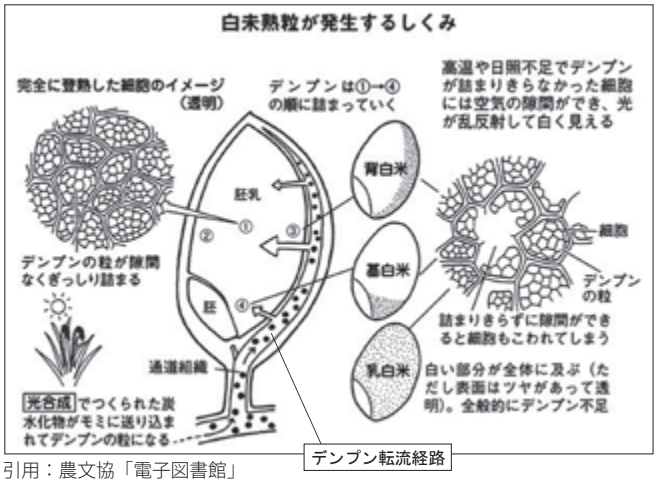
玄米に見られる症状としては「白未熟粒」「被害粒」「着色粒」等であるが、いずれも『登熟初期の高温』が深く関係している点で共通しており、発生要因や登熟期の管理または対策等においても、斑点米カメムシ類の防除を除いては共通している。

◎白未熟粒が発生するしくみ

～高温と光合成の深い関係～

作物の多くは葉から二酸化炭素、根から水を吸収し体内で糖（炭水化物、デンプン）を作り、作物が成長するための「エネルギー」としている。水稲の場合、出穂前は葉茎や根が成長するエネルギーとしてはたらき、出穂後は玄米を発達させるため、穂（籾）へと糖（デンプン）は転流されるが、高温下では体内の脱水症状を防ぐ生理により、日中の水分の蒸散を抑えようと葉の気孔を閉じるため、二酸化炭素の吸収が抑制される。また、水分を蒸散することで体内の気化熱を放出し、生育の健全化を保っているが、気孔を閉じ蒸散作用が抑制されると根からの吸水力も低下し、光合成能力が低下することで糖の生産量が減少する。加えて、気温が下がる夜間に玄米へのデンプン転流が主に促されるが、夜温が高い場合はその働きも不十分となる。

これらの要因で玄米の肥大時期に糖の生産・供給量不足や転流の抑制で玄米のデンプン蓄積が不十分となり、デンプン粒の間に隙間ができ、光が乱反射し白く見えることで白未熟粒となる。「胴割れ」や「クサビ」などの被害粒や着色粒も同様にデンプンの蓄積不良が発生要因である。また、本年のように籾数が増加すると一粒当りのデンプン供給量が不足することでも白未熟粒の発生が助長される。



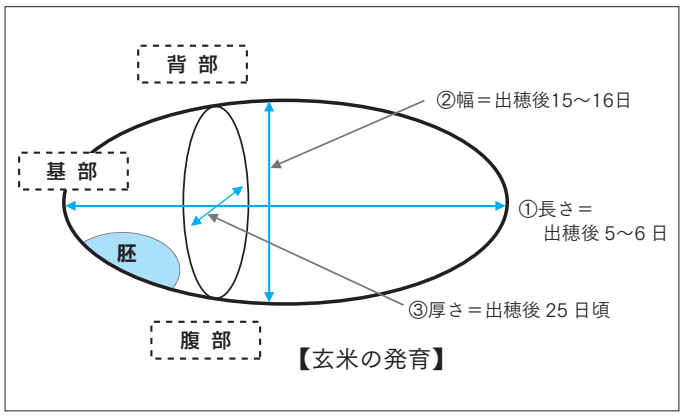
引用：農文協「電子図書館」

◎高温障害発生温度

高温障害の発生と温度の関係については、出穂後20日間の①平均気温が27℃以上、②最高気温が31・5℃以上、③最低気温が23・5℃以上のいずれかが、5日間連続すると障害の程度が大きくなる。また、出穂後14日間の夜温26℃以上が5日間連続すると登熟歩合が5％～10％低下するとの研究報告もある。

◎白未熟粒の起因時期

登熟初期の高温が深く起因する理由は玄米の生長と関係がある。玄米の生長は概ね出穂後「5～6日で粒長」、「同様に15～16日で粒幅」、「25日頃に粒厚」が決定し、腹部や背部等の各部位も出穂後12日～14日程度で細胞分裂が完了する。デンプンも開花後3日目（出穂後約6日）から「中心部」→「腹部」→「背部」→「基部」の順でそれぞれに蓄積が始まり、最初に蓄積が始まる中心部の細胞は出穂後約10日（乳熟期）でデンプンが充満する。その後は順次周辺部の細胞へと蓄積が進む。また、他の部位においても出穂から約20日間の高温がデンプン蓄積に影響するため、登熟初期の高温が発生要因と関係が深いとされている。



【玄米の発育】

◎白未熟粒の種類

白未熟粒はどの部分が白くなるかで種類が「乳白粒」「基白粒」「腹白粒」「背白粒」に分類される。

・乳白粒

日照不足の影響が大きい。登熟初期～中期の高温や籾数過多により助長する。1穂の中でも最も開花が遅い弱勢穎花である下位1次枝梗や2次枝梗に発生が多い。

・腹白粒

腹部のデンプン蓄積と気温の関係では出穂後10日～20日頃の高温で発生が助長されるが、大粒となる開花の早い強勢穎花にも多く発生する。要因としては粒の肥大化にデンプンの転流が伴

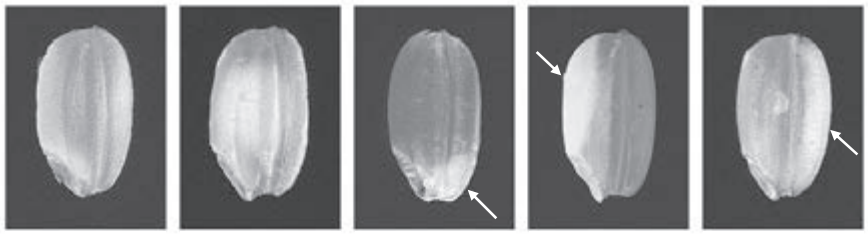
わず引き起こる現象と考えられている。

・背白粒・基白粒

基部は胚に近い部分だが、デンプンの転流経路では最も遠い部位であるため、デンプン蓄積が充満するのも遅い。出穂後10日～20日頃の高温が関係しているが籾数の影響は受け難い。登熟期の窒素欠乏や土壌乾燥、フェーン現象による登熟不良でも助長される。

・心白粒

比較的大粒に多く発生が見られ、発生要因も腹白粒とほぼ同様と考えられるが、出穂後5日～20日間の高温と籾数過多が発生を助長する。品種特性による発生度合に差もある。



玄米の外観品質（農林水産省HPより）

◎高温障害対策

高温障害対策の考え方として、高温を回避するため「田植えを遅らせる」または、「高温耐性品種を選ぶ」等があげられるが、耕種的な技術対応を検討した。

(1)栽植密度

・40株以下の疎植は1株が大きくなり、弱勢茎が増え登熟期間の高温や日照不足の年は乳白粒の発生が増えるため、白未熟粒対策には不向きと考えられる。これまでの研究報告でも50株～70株植えが白未熟粒の発生を抑えるとされている。

(2)水管理

・9葉期の中干し直前に5日～7日間の7㎝以上の深水状態を保ち、無効分げつの発生を抑制する。

・ヘドロ土壌でも同様であるが、特に砂質土壌で中干しを強く実施すると葉色が低下し、背白粒・基白粒の発生に繋がるため、基本技術である土壌表面に「軽くひび」が入る程度で終了する。

・幼穂形成期は最も土壌水分が必要な時期のひとつであり、中干しは幼穂形成期前に終了する。なお、好天日が続く場合は幼穂形成期に3日～5日程度の湛水状態を保つ。

・中干し終了後の間断灌水の目安として、最高気温で積算300℃を超えたら入水する（例：30℃が10日間で積算300℃）。また、本年のように出穂前～出穂以降も連続で高温日が続く予報の場合は、出穂時の「花水」を落水せずに「自然減水」させ、その後は間断灌水しながら出穂後20日間は土壌を強く乾燥させない。

(3)土づくり

・高温時に葉からの蒸散作用の低下を抑える要素として「ケイ素」が有効であるため、基肥または幼穂形成期前の追肥として「ケイ酸質肥料（ケイ酸やケイ酸加里等）」を施す。

(4)施　肥

・基本技術として登熟期の葉色を維持させる（「あきたこまち」：出穂時のSPAD値39～40、出穂後14日のSPAD値37～38が理想）ため、幼穂形成期の生育を勘案しながら幼穂形成期～減数分裂期に追肥を実施し登熟期に備える。

(5)刈取り期

・刈遅れにより白未熟粒の他、茶米や胴割れ粒の発生が増えるため、適期の刈取りを心掛ける。

・ここ数年1穂の中に黄化が進まない籾が見えることから刈取りを遅らせ、結果的に刈遅れとなる場合が目立つが、黄化が進まない籾は「2次枝梗籾」である場合がほとんどで、弱勢穎花である2次枝梗籾は1穂の中でも登熟の順番が最も遅く、屑米となる確率も高いことから、下位の1次枝梗がほぼ枯れた時期に、黄化が進まない籾が2次枝梗籾であるかどうかを見極め、刈取りに入ることが必要と思われる。

◎被害粒、着色粒の発生要因と対策

○胴割れ粒、茶米

登熟期の発生要因としては①出穂後10日間の高温が影響しており、登熟期の葉色が淡いほど発生が多くなる。②早期落水や刈遅れによる籾水分率の低下でも発生する。乾燥時においては③高水分籾の高温乾燥で発生する（胴割れ）。対策としては、①追肥により登熟期の葉色低下を抑える。②出穂後20日間は土壌を強く乾燥させない。その後も好天日が続く予報の場合は、間断灌水を継続する。③刈遅れの防止などである。

○クサビ米

登熟期の高温や早期落水が要因で、デンプン転流阻害による玄米の外側部分に陥没ができ、雑菌等の繁殖により発生する。弱勢穎花（2次枝梗や下位1次枝梗）での発生が多い。対策としては、①追肥により登熟期の葉色低下を抑える。②出穂後20日間は土壌を強く乾燥させない。その後も好天日が続く予報の場合は、間断灌水を継続する。

胴割れ粒

茶米

クサビ米

あぐりプラザ トクトク情報

★金曜市開催予定日

1月10日㈮・1月17日㈮・1月31日㈮
2月7日㈮・2月14日㈮

※1月10日はポイント２倍dayで更にお得にお買いもの!!

★ポイント３倍day開催予定日

1月28日㈫・2月12日㈬

★ポイント２倍day開催予定日

1月10日㈮・1月20日㈪
1月30日㈭・2月10日㈪

★通常特売開催予定日

1月23日㈭・24日㈮ の2日間

☆夕市開催中!!（平日の毎日、夕方４時より特価品を取り揃えてお待ちしてます。）
☆ご自宅でのお困りごとはございませんか？（リフォームに関してもご相談ください）
水回りの困りごと、テレビの映りに関して、ストーブの故障等、どんなことでもご相談ください。

営業時間
午前９時～午後７時（日曜日も休まず営業しております）
お問い合わせは生活課（45－2214）まで。

家族の健康

寒くなると増える腰痛に注意

健康科学アドバイザー●福田　千晶

寒い季節に増える健康問題の一つが腰痛です。屋外での農作業や、年末の大掃除などは腰痛になりやすいので注意が必要です。

腰痛が最も起きやすい状況は、重い物を持ち上げたとき。腰に大きな負担がかかりギクっとくるのです。予防するには日頃からストレッチで柔軟性を養い、筋力強化も行い、持ち上げる重さに負けない体をつくることが必須です。物を持ち上げるときは、上体だけを前屈して腰のパワーで持ち上げるのではなく、かがんで物をしっかり持ち、足腰の力を総動員して立ち上がりつつ持ち上げると、腰への負担が減らせます。重量挙げの選手の競技の様子を思い浮かべ、見習いましょう。

前かがみの姿勢は、腰に負担がかかります。農作業、物を箱に詰める、掃除機をかけるなどの家事、育児や介護などにも前かがみ動作はいっぱいです。寒い時期は体を冷やさない服装を心掛け、作業の合間には腰を伸ばしリラックス、疲れた夜には入浴で心身をほぐしておきます。ストレスもメンタル不調も腰痛の原因になり得るという報告があります。腰痛予防には、気持ちのゆとりも大切です。体重増加も腰痛の誘因になります。年末年始は飲食の機会が増え、太りやすい時期。腰痛予防には体重管理も欠かせません。

腰痛にも、骨粗しょう症など骨に問題がある、腰椎すべり症など骨の並び方に問題がある、腰椎椎間板ヘルニアなど椎間板に問題がある、腰部筋膜症など筋肉の問題があるなど、いろいろな状態があります。さらに腎臓や子宮など体の内部の病気が原因の腰痛もあります。ですから、激痛を伴う場合、繰り返す腰痛や長引く腰の痛みがあれば、まずは整形外科を受診してレントゲン検査などをして正しい診断を受け、その状況に合った治療や生活上の対策をすることが大切です。腰痛を予防し、冬も快適に過ごしたいですね。

第426号

女性部「活動だより」

☆これからの行事予定

◎１月16日　料理教室（酢を使って）
　　村民センター
◎１月23日　ＪＡ役職員との懇談会
　　９時　ＪＡ会館
◎１月23日　女性部懇談会　13時　ＪＡ会館
◎１月24日　健康講座（認知症について）
　　14時　保健センター
◎２月２日　ふるさと祭り
◎２月４日　リフレッシュ体操
　　（インターバル速歩）13時30分
◎２月28日　総会
事業への参加・お問い合わせは生活課 木村、または執行部まで

★活動報告と各種会議報告

◎女性部研修

秋田県家の光講師・綿引かおる氏「笑顔でコミュニケーション」（11月20日午前）

普段から声をきちんと出して笑顔でコミュニケーションすることを教わり、実際に発声練習をしました。

人とのコミュニケーションで大事なことは、言葉の内容はもちろん、表情や服装、声の調子、話し方などです。いきいきした表情はイコール笑顔ということです。笑顔のポイントは、目、口、ほお、あご等ですが、自分で鏡を見て確かめながらやってみました。

会話は、発声、発音、声の高さ、速さ、長さ等に気を配り、さらにプラス一言でふくらませることができるのです。

私たちの日頃の会話でも、ちょっとした気配りでより良いコミュニケーションができて、人間関係もさらにふくらみ、お互いに豊かな人生を送れそうです。皆さん、笑顔でいきいき元気な毎日を過ごしましょう。

（土田記）

綿引かおる氏

笑顔のポイントを鏡で確認する女性部員

◎女性部研修

能代ミュージカルキッズ代表・今立善子氏「ひとり芝居とおはなし」（11月20日午後）

ひとり芝居では、「カンカンババ」というキャラクターとして手拭いをかぶり手押し車を押して登場しました。落ちているカンとペットボトルを拾いながら、現在の世の中で起きていることを秋田弁でおもしろおかしく表現していて、なるほどとうなずいてしまいました。

おはなしでは、14歳で発症したてんかんで苦しく悲しい経験をしたこと、人の温かさや優しさで乗り越えてこられたこと、能代市民劇場で芝居に出会ったこと、43年間人工透析をしていたご主人のこともお話しされました。

たくさんの人たちに支えられ七十数年、明るく強く生きてこられたことが伝わってくるおはなしでした。

（古谷記）

今立善子氏によるおはなし

今立善子氏によるひとり芝居

◎軽スポーツ大会・ボッチャ（11月27日）

結果　優　勝　　フレミズＡ
　　準優勝　　西３－２Ｄ
　　３　位　　西１－１

スポーツ推進員の皆さんのデモンストレーションに始まり、“ボッチャ”競技の「おもしろさ」と「奥深さ」に少しだけ触れたひとときでした。

（エコレク部・鎌田記）

軽スポーツ大会“ボッチャ”

◎不用衣類回収（12月５日）

荒れた寒い日となりましたが、54人－597.6kg回収いたしました。

燃やせるゴミの減量化とリサイクル推進にご協力ありがとうございました。　（エコレク部・鎌田記）

◎加工センターの清掃と用具の煮沸（12月２日）

みそ・豆腐作りが始まる前に、各住区からの役員と加工部で行いました。ご苦労様でした。

年明けの１月９日、使用の終わる３月６日も予定していますので、またよろしくお願いします。

うれしいことに、豆腐圧縮機の箱の部分が新しくなりました。でも、古くなった機器も多いので大事に使用して事故のないよう注意してください。

※豆腐のにがりは薬局では扱いませんので、山本か栢森までご連絡ください。500円（税込）です。　（山本嘉子記）

用具の煮沸の様子

◎リフレッシュ体操「自力整体」（12月14日）

芹田妙子氏から腰痛とひざ痛についてのお話があり、実技を行いました。

足腰の痛みの原因として、食べ方に間違いがあり、それにほとんどの人が気づいていない。整食法を実践することで解決につながる。腸の活動時間に合わせた食べ方、就寝時間、睡眠時間によって排便も変わる。腸内停水が溜まっている人の見分け方。などお話しいただきました。

実技では、自力整体と歩き方を行いました。なお、自力整体はスポーレでも教室があります。　（栢森慶子記）

リフレッシュ体操「自力整体」

女性部・フレミズ共催
軽スポーツ大会

女性部とフレッシュミズは11月27日、村民体育館で「軽スポーツ大会」を開催し、約70人が参加しました。

この大会は、２０１７年まで44回続いた「婦人バレー大会」を、より多くの人に楽しくスポーツに参加してもらえるよう、２０１８年に一新したものです。昨年はスマイルボウリングを行い、今年は「ボッチャ」を行いました。

２０２０年東京パラリンピックの正式種目でもあるボッチャは、ジャックボール（目標球）と呼ばれる白いボールに、赤・青の各６球のボールをいかに近づけるかを競うスポーツです。

参加者は、「ボールの投げ方一つで戦局が変わるなど、実際にやってみると奥深かった」と感想を述べました。

スポーツが得意な人もそうでない人も、ぜひご参加ください！

優勝 フレッシュミズＡ

準優勝 西３の２Ｄ

３位 西１の１

協議会も立ち上げ
ＧＮＳＳ汎用利用・最終成果報告会

秋田県立大学と秋田県農業試験場、農研機構・東北農業研究センターなどでつくる「大潟村ＧＮＳＳ利用コンソーシアム」は、ＧＮＳＳ（全地球測位衛星システム）を活用した自動操舵田植機の実証研究を行い、今年９月に３年間の研究を終えました。

この最終報告会を11月29日にＪＡ会館大会議室で開催し、35人が参加しました。自動操舵田植機の精度や、無落水移植栽培による環境保全効果の他に、自動操舵装置が大豆播種、タマネギ畝立などに汎用利用されていること、そのことによるコスト低減などについて報告されました。

報告会の様子

終了後、秋田県立大学の矢治幸夫氏が、関係機関と協力してＧＮＳＳ技術の向上と普及に寄与する組織の立ち上げを呼びかけ、「大潟村ＧＮＳＳ利用協議会」が設立されました。

興味のある方の参加をお待ちしています。

大潟村ＧＮＳＳ利用協議会

会　長	桑原　秀夫	氏（ＪＡ大潟村専務理事）
副会長	河内　伸介	氏
監査役	早津　一仁	氏
監査役	菅野　正史	氏

大潟村ＧＮＳＳ利用協議会の会長に選出されたＪＡ大潟村の桑原秀夫専務理事

「大潟村ＧＮＳＳ利用協議会」立ち上げを呼びかけた秋田県立大学の矢治幸夫氏

ＧＮＳＳ汎用利用によるコスト低減について報告した秋田県立大学の赤堀弘和氏

ＧＮＳＳ研究の成果と最新情報について報告した東北農研機構の長坂善禎氏

※フォトニュースは16ページにも掲載しています。

フレミズだより

●活動報告

11月27日　軽スポーツ大会（ボッチャ）
12月３日　料理講習会（みそ玉作り）
11月19，26日・12月10，17日
ひだまり苑ボランティア（洗濯物たたみ）

●活動予定

1月14日　とうふ作り講習会
2月21日　総会

料理講習会
（みそ玉作り）の様子

軽スポーツ大会の様子

軽スポーツ大会で優勝した
お二人です

臨時職員のご紹介

これから皆様のお世話になります。
どうぞよろしくお願い申し上げます。

総務課　**松沢　裕子**

年金個別相談会のご案内

ＪＡでは、年金についての無料個別相談会を下記日程で開催いたします。当日は年金専門の社会保険労務士が年金に関するご質問にお答えいたしますので、ぜひご相談くださいますようご案内申し上げます。なお、待ち時間軽減のため、事前予約制とさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

日　時： ２月６日（木）午前９時～午後３時
場　所： ＪＡ会館２階小会議室
対　象： 年金の受け取りを目前に控えている方や現在年金を受け取っていて、疑問をお持ちの方
持　物： 認印・年金手帳・基礎年金番号通知書・年金証書・年金定期便　など

☆お申し込み・お問い合わせは金融課（45-3018または2211）まで。

職　員　人　事

退　職　組合員の皆様、ありがとうございました。

12月８日付　斉藤 優子（資材課・臨時職員）長い間お疲れ様でした。

青年部　活動報告と予定

随時部員を募集していますので、興味のある方はぜひＪＡ大潟村営農支援課（TEL：45-3033）までご連絡ください！

●活動報告　12月10日 忘年会・麻雀交流大会（秋田市）
●活動予定　１月の活動予定は未定です

五城目警察署からのおしらせ

大丈夫ですか　屋根の雪～雪下ろしは慎重に～

平成30年度の雪害事故では、６人の方が死亡し、89人の方が怪我をされています。積雪が多くなるこの時期、屋根の雪下ろし作業が増え、作業中に屋根から滑り落ちるなど雪による事故が多くなります。

次のことに注意し事故に遭わないようにしましょう。

【屋根の雪下ろし】

- 作業は一人で行わず、複数で行いましょう。
- 必ず命綱を付け、ヘルメットを着用し、滑りにくい履物で作業を行いましょう。
- 屋根の登り降りは、ハシゴの横滑りや転倒のないように、家族等に押さえてもらうか、ロープ等でハシゴを固定して行いましょう。
- 屋根の登り降り時にはスコップ等の除雪用具は手に持たず、背負ったり、登り降りする前にロープを使うなどして上げ下げしましょう。
- 暖気時には、屋根が滑るので屋根に登っての雪下ろしはやめましょう。
- 屋根の雪下ろしと地上の除雪等を同じ場所で同時に作業するのは危険ですのでやめましょう。
- 屋根下の通行人（特にお年寄りや子ども）に十分注意しながら作業しましょう。

【除雪機の使用】

- 機械に巻き込まれやすい服装での作業はやめましょう。
- ロータリー部及びシューター部に詰まった雪は、必ずエンジンの停止を確認してから取り除きましょう。
- 周囲の人に注意しながら作業をしましょう。

【その他】

- 軒先の下での作業や通行時には、雪や「つらら」の落下に注意しましょう。
- 避難口や避難通路は、普段から除雪しておきましょう。
- 除雪した雪は道路に出さず、指定された場所に捨てましょう。

農閑期における肥料等の保管管理の徹底について

海外に限らず日本においても、薬局、ホームセンター、インターネット等で購入した化学物質から爆発物を製造する事案が発生しています。

肥料や農薬の中にも爆発物の原料となり得るものがあります。農閑期を迎えましたが、会員の皆様の中で使い残した肥料をお持ちの方がいらっしゃいましたら、

- 屋外に放置しない
- 鍵の掛かる保管庫・小屋で管理する
- 盗難発生時は警察へ通報する

ことをお願いします。

また、肥料や農薬を販売している事業者の皆様は、その保管管理についてお客様にも一声掛けていただくようお願いいたします。

五城目警察署では、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、テロ対策をより一層強化しています。

テロを未然に防止するため、引き続きご協力をお願いします。

五城目警察署　TEL 018-852-4100

給油所・あぐりプラザ・ＡＴＭの終業時刻の変更について

誠に勝手ではございますが、１月10日（金）は業務終了後に従業員研修会を行うため、給油所とあぐりプラザ、およびＡＴＭは下記のとおり終業時刻を変更させていただきます。

組合員はじめ、利用者の皆様にはご理解、ご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

事業所	終業時刻
給油所	午後５時
あぐりプラザ	
ＡＴＭ	

※「ＪＡの概況」は休みます。「理事会報告」は２月号に掲載します。

No.243 初めての **お誕生日おめでとう!!**

千葉　冬華（とうか）ちゃん

食べるのとお姉ちゃん大好きなとうか。

たまにしつこくしすぎて嫌がられるけど、いつまでも仲の良い姉妹でいてね。

このコーナーに掲載希望の方はご連絡お待ちしております。TEL 45－2211　広報担当

フォトニュース PhotoNews

JA共済プレゼンツ

超神ネイガー交通安全教室

共済課とJA共済連秋田は12月5日、大潟こども園を会場に「超神ネイガー交通安全教室」を開催しました。

この教室は、楽しい思い出づくりを通じて子どもたちを交通事故から守ることを目的に、JA共済連秋田が県内の幼稚園などで行っています。

2018年度に内容をリニューアルし、秋田のご当地ヒーローとしておなじみの超神ネイガーが、子どもたちを事故から守るために強化された「超神ネイガーシグマ」に変身し、仲間とともに横断歩道の渡り方や信号機の意味などの交通ルールを楽しく教えました。

参加した園児は、「ネイガーと勉強できてうれしかった」と感想を述べました。

超神ネイガーシグマたちと楽しく交通ルールを学びました

※フォトニュースは14ページにも掲載しています。